

令和元年6月24日現在

機関番号：34309

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03270

研究課題名(和文) ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築

研究課題名(英文) New Aspects of Kofun Period and Archaeological History of Japan from the results of survey on Gowland Collection

研究代表者

一瀬 和夫 (ICHINOSE, KAZUO)

京都橘大学・文学部・教授

研究者番号：70460681

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：イギリスのウィリアム・ゴーランドは、大阪造幣局において1872～1888年の滞日期間中、主に古墳に関心を抱いて数多く調査した。成果はイギリス帰国後に論文となり、考古資料、調査記録・文献が大英博物館に残された。

このゴーランド・コレクションの基礎調査で古墳出土の破片資料などの発見の他、ゴーランドの日本での調査履歴や交友関係など、多くの事実を確認した。発行した報告書では鹿谷古墳出土遺物を得た具体的な状況を示した。研究方法に関しては外国人や日本の研究者からも様々な影響を受けての深化する状況とともに、調査研究方法の先進性に加え、年代・生産という後の考古学の基本視点が醸成していたことが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ゴーランド・コレクションの基礎研究を元に、日英間や国内でもゴーランド調査関係地域に成果を広く発信することを重要な目標とした。早期に外国人が日本で調査した地元ではその関心が高かった。一方で、出土品が大英博物館日本室に展示されるが、引き継いで昨年9月にリニューアル工事が完成し、コレクションが並び、世界の考古学研究を結んでいる。

成果を様々な形で普及させるパブリック・アーケオロジーの視点から、イギリスや京都をはじめ関係地域でのシンポジウム・ワークショップを積極的に実施した。コレクションのデータベース、写真・図面など調査記録は大英博物館と共有し、一部は館の所蔵品データベースに世界からアクセスできる。

研究成果の概要(英文)：An Englishman William Gowland, while employed at the Japan Mint between 1872 and 1888, visited to measure, photograph and study the Japanese ancient tomb. As of 1889, the Gowland's collection has been held by the British Museum and is on permanent display in the Japan Gallery. Its Gowland Collection is widely known as one of the most important Kofun period collections held abroad containing reliably recorded archaeological materials.

Our Project has been investigating Gowland and his associated materials distributed between Japan and Britain. He investigated a main ancient tomb. The project simultaneously moved forward with documenting the amount of written records collected and conducts a comprehensive examination that links them to objects. It reassessed Gowland's studies and research methods and the archaeological history at that time. It attempts to be a diversified project that transmits its research results internationally based on the perspective of public archaeology.

研究分野：人文学

キーワード：考古学 古墳 日本史 近代史

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) ゴーランドの調査研究活動 イギリスのウィリアム・ゴーランド(1842-1922年)は1871(明治4)年に大阪に置かれた造幣寮勤務のいわゆる「お雇い外国人」として来日し、1872～1888(明治5～21)年の16年間滞在した。滞日期間中、日本の遺跡、とくに古墳に多大なる関心を抱き、数多くの調査を行った。

ゴーランドの調査研究活動は、日本においては考古学や先史学が学問として成立する以前の時期に行われたものであった。その調査技術や内容は日本にとどまらず、世界の考古学の歩みの中でも先端に位置づけられる。19世紀後半のヨーロッパは、年代論に基づいた科学的な考古学の研究方法が急速に進展・普及した時期であった。ゴーランドの著作には、日本の古代遺跡の年代に対する深い関心と考察が随処にうかがわれる。

(2) ゴーランドの優れた調査・記録技術 古墳の墳丘や石室の精密な図化は、とくに高く評価されている。奈良県コナベ古墳の測量図は、大型前方後円墳の平面形を初めて近代的な手法で正確に表現したもので、絵図が記録の中心であった当時の日本において、突出した精度を備えた記録表現であった。そして、写真技術を駆使したことも特色である。光量の限られた横穴式石室内での撮影など、工夫を凝らした貴重な写真資料が多数残される。こうした日本での調査成果は、イギリス帰国後に論文として発表された。

(3) ゴーランド収集の膨大な考古資料とそれに関わる調査記録・文献 これらを本プロジェクトでは「ゴーランド・コレクション」とした。

その資料は数が多いだけでなく、学術的な質が極めて高いことも特徴である。芝山古墳の発掘品をはじめとして、資料の出土地など由来が確かなものを多く含む。調査記録を参照することにより、出土古墳の情報も豊富に得ることが可能である。現在では亡失した遺跡に関わる重要資料も含まれており、単に欧米で所蔵された日本考古資料という以上の価値を有する。最も重要な古墳のコレクションのうちの記録資料を伴った一連のものがイギリスに渡り、大英博物館に収蔵された。これらの目立ったものは、ビクター・ハリスと後藤和雄氏によって2003年に日本人と英語で同時に発表された。しかし、同時にもたらされた破片資料やメモのような記録書類などのコレクションの全容は、不明なままだった。

2. 研究の目的

(1) 研究対象 ゴーランド・コレクションには考古資料と記録・文献・写真資料がある。本研究は各地域・時代にわたるコレクションの中で、彼がもっとも力を入れた古墳時代の資料をその対象とした。

(2) 新たな方法での比較・評価・検討からの新展開 大英博物館所蔵ゴーランド・コレクションの総合的な基礎資料調査の成果と新知見をもとに、レーザー3次元計測や科学分析など新たな分析手法を活用し、国内関連資料との総合的な比較研究を進め、横穴式石室や武器、馬具、須恵器などの遺物の評価、古墳の変遷過程の検討などから古墳時代研究に新展開をもたらすことが本研究の目的である。

(3) 記録書類の資料化 同時に、膨大な量に及ぶゴーランドの記録書類の資料化を進め、遺物とリンクさせた総合的な検討をおこない、ゴーランドの調査・研究手法や当時の日欧における考古学史的な再評価する。

(4) パブリック・アーケオロジーからの情報発信 これまでの共同調査・検討を通じて構築した、大英博物館をはじめとする英日両国を中心とする研究諸機関と研究者の協力関係を推進し、パブリック・アーケオロジーの視点から、研究成果の国際的な発信と活用をはかる。

3. 研究の方法

(1) コレクション全体像の把握 ゴーランド自身が作成したコレクションのリストや所蔵品の完全な目録などは確認されていない。大英博物館がインターネット上で公開している所蔵品データベースがあり、主要な出土遺物の写真を提示した書籍として『日本考古学の父』があるが、破片やそれぞれの出土地、遺物の種類の詳しい同定まで行ったリストは完成していない。また大英博物館において、ゴーランド・コレクションが一箇所にまとめて収蔵されているわけではないことも判明した。一部の資料は館外に保管されており、コレクションの範囲を確認することも困難である。

本研究の第一の目標は古墳出土遺物に関する詳細なリスト、データベースの作成に置いた。上記の所蔵品データベースや書籍を参照しつつ、1点ずつ確かめながらリスト作成を進めてゆくという方法をとることとなった。確認した古墳関係資料については、すべて写真を撮影、できる限り実測図も作成する。その過程で個体同定、出土地の情報などを確認してゆく。

コレクション遺物には注記やラベルなど由来を示す材料は多いものの、資料の出自の判断が難しいものも数多くある。また鉄器や土器の破片などは1点1点検討し、個体識別を行ってゆく必要もある。これらはゴーランドの論考やそのほかの資料を参照して検討してゆく必要もある。

(2) ゴーランドの調査研究の評価　日本におけるゴーランドの調査研究活動は孤立的なものではなかった。『日本考古学の父』でも示されたように、周囲の日本人や外国人との交流の中で資料の入手、遺跡の存在の確認などが進められたものである。優れた調査技術や研究視点も周囲との交流の中で育成された可能性が高い。ゴーランドの調査研究活動の実態、研究手法を明治期の社会状況の中で検討し、その先進性を明らかにする必要がある。

(3) 古墳研究への活用　今日の研究水準に基づいた調査検討を行うことにより、ゴーランド・コレクションを古墳研究の進展に活用する。精密な実測図の作成やレーザー 3 次元計測を進める。橿原丸山古墳や鹿谷古墳群など現在も残されている古墳の再調査も並行して行い、それらの重要古墳の再評価と古墳時代研究の新展開をはかる。

(4) 成果の国際発信　ゴーランド・コレクションは欧米の博物館所蔵の日本考古資料の中で質量ともに最大のものであり、また大英博物館日本展示室の主要な展示品として利用されている。この利点を活かし、古墳研究の成果を国際発信するために役立てる。主要な調査研究がイギリスで行われることによって、活動自体が研究の国際交流につながることも期待される。日英両国におけるシンポジウムや刊行物、コレクションのデータベース作成と大英博への提供を通じて、研究成果を共有し、国内外に広める。

(5) パブリック・アーケオロジー　調査研究成果を学術面だけでなく、広く市民に公開し、普及へと活用することも重要な目的である。ゴーランドが日本で得た資料が現在大英博物館にあるという点に関しては、鹿谷古墳の所在する亀岡など、関係地域では特別な関心をもたれている。また逆にイギリスからの「お雇い外国人」が日本で果たした役割に関しては、イギリス市民の興味を引いている。調査研究活動を広く共有し、国際的なパブリック・アーケオロジーの実践に結び付けてゆく。

4. 研究成果

(1) ゴーランド・コレクションの資料について2011年から2018年まで基礎的な調査を進めた。これまで存在が知られていなかった大阪府の百舌鳥古墳群の埴輪片や將軍塚古墳と耳原古墳出土した須恵器片など新たな資料の発見もいくつかあった。ゴーランドが日本で行った調査の履歴や交友関係については多くの事実。鹿谷古墳群出土遺物を獲得する具体的な状況が明らかとした。研究手法に関しても外国人や日本の研究者からも様々な影響を受けて深化したことや優れた調査技術の系譜についても判明しつつある。

(2) 今まで高く評価されてきた調査研究方法の先進性に加え、「年代」「生産」といった後の考古学において基本となる視点が醸成されていたことが判明した。その研究の先進性と背景について、さらに究明することが可能である。

(3) ゴーランドやそのコレクションの学術研究を元に、本研究では、日英、そして日本の中でもゴーランドが調査に関わった地域において、その成果を広く発信してゆくことを重要な目標とした。その結果、日本の出土遺物が大英博物館の一角に一定の面積で展示され、それを引き継いで昨年9月には日本室のリニューアル工事が完成した。日本の古墳の具体的なコンテキストを視覚的に世界に知らせる発信基地ともなっている。大英博物館のゴーランド・コレクションのホームページのデータベースも稼働している。ゴーランドは日英双方にまたがる研究者であったことなど、ゴーランドとそのコレクションの存在は、日本と欧米の考古学研究を結びつけていく上でも重要である。また日本の各地で行った調査に関しては、極めて早い段階に外国人が地域の遺跡の調査研究に関わったという点で地元に関心も高かった。

(4) 専門的な研究成果を様々な形で普及させてゆくパブリック・アーケオロジーの視点から、日英両国、そして京都・島根・岐阜など関係地域でのシンポジウム・ワークショップを積極的に実施した。コレクションのデータベース、写真・図面など調査記録は大英博物館と共有し、一部は館の所蔵品データベースに反映されつつある。またニュースレターを発行し、新発見・知見などを随時報告した。

(5) 昨年、明治大学博物館で行った特別展では、写真測量データを使った実物大の石室と石棺の再現と3次元動画の放映。レプリカ製作時のデータを3Dプリンタで元型をつくり、着色して「触る」ことが可能な展示を行った。自ら手に取ることで来館者が細部の観察することも可能で、本来は廃棄する元型を有効に活用した。ゴーランドの考古学以外の業績をも紹介し、造幣・山岳・日本美術・明治期の日本と海外の交流史など、多方面にわたって研究成果が共有された。

< 引用文献 >

ビクター・ハリス他、ガウランド日本考古学の父、朝日新聞社、2003、199

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計10件)

- 大賀克彦、大英博物館蔵 ゴーランド・コレクションの玉類に関する再検討、京都橘大学大学院研究論集 文学研究科、査読有、17号、2019、pp.1-19
- 富山直人、ナウマンと土佐の古墳、日本考古学、45号、査読有、2018、pp.57-68
- 岡本篤志・岩本崇、古墳の調査研究と成果還元における三次元計測の意義 島根県古天神古墳での実践をもとに、中四研だより、査読無、2017、pp.11-15
- 竹村亮仁、ゴーランド・コレクション報告 玉類について、京都橘大学大学院研究論集 文学研究科、査読無、15号、2017、pp.16-33
- 一瀬和夫・富山直人・前田俊雄、大英博物館所蔵ゴーランド・コレクションの天皇陵古墳関係の古墳、古代学研究 査読有、209号、2016、pp.42-45
- 一瀬和夫・岡本篤志、大英博物館所蔵ゴーランド・コレクションの埴輪調査、京都橘大学大学院研究論集 文学研究科、査読無、14号、2016、pp.30-45
- 富山直人、ゴーランドの研究に対する評価と取り扱われ方、古代学研究 査読有、207号、2015、pp.39-45
- 富山直人、ゴーランドによる高安古墳群の調査とその成果、古代学研究 査読有、207号、2015、pp.35-38
- 富山直人、ゴーランドと六甲登山口所在十善寺古墳の埴輪、古代学研究 査読有、206号、2015、pp.44-45
- 富山直人・笹栗 拓、鹿谷古墳群石室実測調査報告、古代学研究 査読有、206号、2015、pp.38-43

〔学会発表〕(計10件)

- 菱田哲郎・富山直人・森下章司・諫早直人・一瀬和夫、大英博物館ゴーランド・コレクション調査プロジェクト(亀岡編) 鹿谷古墳の新知見、大英博物館ゴーランド・コレクション調査プロジェクト研究発表会・亀岡市文化資料館、2019
- 一瀬和夫、日本の古墳研究第一人者としてのガウランド、第63回明治大学博物館公開講座考古学ゼミナール ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究、2018
- 富山直人、ガウランドの「ドルメン」研究とその協力者たち、第63回明治大学博物館公開講座考古学ゼミナール ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究、2018
- 忽那敬三他、特別展 ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究、明治大学博物館アカデミーコモン B1 博物館特別展示室、2018
- サイモン・ケイナー、大英博物館とガウランド・コレクション、特別展 ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究 開催記念特別講演会(招待講演)、2018
- 忽那敬三、ウィリアム・ガウランド-その生涯と古墳研究、第63回明治大学博物館公開講座考古学ゼミナール ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究、2018
- 諫早直人、ガウランドが伝えた「遺産」-京都府鹿谷古墳群の記録と出土資料-、第63回明治大学博物館公開講座考古学ゼミナール ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究、2018
- 岡本篤志、3D ホログラムプリントを用いた見瀬丸山古墳 3D 航空レーザ計測の立体可視、第45回可視化情報シンポジウム「アートコンテスト」、2017
- 菱田哲郎、The Beginning of Survey of Giant mounds in Japan with comparative view - the research of William Gowland -, 世界考古学会議第8回京都大会、2016
- 諫早直人・片山健太郎・金宇大・サイモン=ケイナー・一瀬和夫、大英博物館ゴーランド・コレクション京都府鹿谷古墳出土馬具の調査、日本考古学協会、2016

〔図書〕(計7件)

- 森下章司・土屋隆史・奥田智子・諫早直人・前田俊雄・ルーク=エジントン=ブラウン・一瀬和夫・金宇大・竹村亮仁・片山健太郎、ゴーランド・コレクションの調査プロジェクト、鹿谷古墳の研究-ゴーランド調査古墳の研究2-、2019、186
- 忽那敬三、明治大学博物館、特別展 ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究 2018年度明治大学博物館特別展、2019、80
- Kazuo Ichinose・Simon Kaner・Luke Edgington-Brown・Tetsuo Hishida・Woodae Kim、ゴーランド・コレクション調査プロジェクト、ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築 News Letter, No.4、2018、28
- 森下章司・奥田智子・富山直人・前田俊雄、ゴーランド・コレクション調査プロジェクト、白鳥塚古墳・山本古墳群-ゴーランド調査古墳の研究1、2017、37
- 森下章司・西村秀子・土屋隆史・菱田哲郎、ゴーランド・コレクション調査プロジェクト、ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築 News Letter No.3、2017、18
- 一瀬和夫・宮川禎一・諫早直人・岡本篤志・菱田哲郎、ゴーランド・コレクション調査プロジ

エクト、ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築 News Letter No.2、2016、22

竹村亮仁・富山直人・西村秀子・忽那敬三・岡本篤志、ゴーランド・コレクション調査プロジェクト、ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築 News Letter No.1、2016、36

6．研究組織

(1)研究分担者

森下 章司(MORISHITA, Shoji)
大手前大学・公私立大学の部局等・教授
研究者番号：00210162

菱田 哲郎(HISHIDA, Tetsuo)
京都府立大学・文学部・教授
研究者番号：20183577

佐々木 憲一(SASAKI, Kenichi)
明治大学・文学部・専任教授
研究者番号：20318661

諫早 直人(ISAHAYA, Naoto)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：80599423

(2)研究協力者

初村 武寛(HATUMURA, Takehiro)
高橋 照彦(TAKAHASHI, Teruhiko)
日高 慎(HIDAKA, Sin)
岡本 篤志(OKAMOTO, Atsushi)
前田 俊雄(MAEDA, Toshio)
宮川 禎一(MIYAKAWA, Teiichi)
ティモシー・クラーク(Timothy Clark)
ニコル・ルーマエール(Nicole Coolidge Rousmaniere)
サイモン・ケイナー(Simon Kaner)
忽那 敬三(KUTHUNA, Keizo)
土屋 隆史(THUCHIYA, Takashi)
富山 直人(TOMIYAMA, Naoto)
西村 秀子(NISHIMURA, Hideko)
竹村 亮仁(TAKEMURA, Kathuhito)
金 宇大(KIM, Woodae)
内田 ひろみ (UCHIDA, Hiromi)
大賀 克彦 (OGA, Katsuhiko)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。